

恵みと真理のニュース



2015 年 12 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さを全て記録できないのを証します

私はイエス様を信じない家庭で生まれ一度も教会に行ったことがなかったです。7兄弟の中で長男だった今の旦那に出会って1981年結婚しました。アンヤンで新婚生活をして息子二人を産んで暮らしました。ある日、次男が小学校6年生の末からインシュリン依存性糖尿病にかかりました。家族の病気もなかったですが子供がなぜこんな病気にかかったか理解出来ませんでした。病院ではなかなかかからない病気だけど間間、細菌の感染によって発病する場合もあると言われました。毎日、朝と夜私が子供にインシュリン注射を打たなければならず、そうしなければ息子が自ら体に注射を打ちました。

この息子が一人の力で生きることが出来るか心配で一人でたくさん泣きました。

そうするうちに2000年に旦那の会社で夫婦旅行を送ってくださって チェジュに行って来て 一行の多くが死傷した大きい交通事故が起こりました。旦那はうちみくらいでしたが私は頭の骨が骨折になって危ない状態になりました。幸いに手術がよくできて早く回復しました。その時から私は人生の空しさを悟り生と死の問題を深く考えるようになりました。はじめて神様を信じ支えることに関心を持ちました。今まで教会の近くに住みながらも礼拝の時間に多くの聖徒が教会に入る姿を見て驚いたけれど教会と信仰については関心がまったくありませんでした。

私の兄弟姉妹の中で一番最初にイエス様を救い主として受け入れ他の家族のためいつも祈りする姉は私を見ると命みようがだった私を助けてくださった神様を今すぐ信じなければならぬと強く伝道しました。そうしながらちょうど恵みと

真理教会の近いところで住んでいるから早く見言葉と聖霊に満たした恵みと真理教会に通いチョヨンモク牧師の説教を聞いてみなさいと勧めました。

2002年いよいよ教会に行きイエス様を受け入れ信仰生活を始めました。教会に行ったらその間世の中で感じられなかった神霊な喜びと平安が私の心いっぱいになりました。特に痛い次男をつれて礼拝に参席して祈りし賛美すると全ての苦しみや心配がなくなり“アメイジング・グレイス”“私のような罪びとを助けてくださった神様の恵みがどれほど大きくて感謝するか”涙を流しました。説教を聞くたびに恵みになり信仰が強くなりました。救われた喜びが溢れ旦那の救いのため祈り伝道しました。

何ヶ月が過ぎてクリスマスに旦那に教会へ行こうとするさくしないので、代わりに今日は必ず教会と一緒にいこう”としたら、旦那は、ためらうことなく“そう、わかった!”と答えました。真に喜びました。神様は旦那を愛して子供として選んだと確信になりました。そして、旦那はその時から私と共に熱心に教会を通い互いに信仰が成長させる同役者になりました。心が頑な姑も真実な執事になりました。“神様が私をどれほど愛するか、私が年を取って心が楽しい事は全て神様の恵みだ”としました。まだイエス様を受け入れなかった子供がいるが祭祀をなくして礼拝をささげます。そして、不信仰の子供に神様を信じ支える生活をするように強く勧めます。

私達は2007年旦那の職場によってピョンテクに来て生活をしています。今まで様々な事がありましたが、その時ことにいつも私の道を予備して助けてくださる神様の恵みで生きています。ここでも恵みと真理教会があって感謝するところで主を支えます。 もっと神様に感謝することは、次男も結婚し

て今まで合併症もなく治療がよくできて今年は糖尿病の完治判定を受けました。健康で職場生活しています。私も原因を知らないアレルギー慢性鼻炎で苦労しましたが、今は治癒され健康な体で主の事に支えています。旦那は今年、按手執事になりました。

“主が民の傷を包み／重い打ち傷をいやされる日／月の光は太陽の光になり／太陽の光は七倍になり／七つの日の光となる。”（イザヤ30：26）

私は特に賛美を歌うのが好きです。いつも賛美をする私に長男が電子ピアノと本も買ってくれました。しかし、年を取って指が硬くて一人で習う事が出来ませんでした。すると57歳になる嫁がピアノ塾の受講費を払ってくれました。そして、今日も熱心に先生から賛美歌を習い賛美する喜びを享受しています。世で主を知らなくてさ迷いながら生きた私を救ってくださり、家庭が神様の祝福を受ける家庭になるようにして、賛美の恵みも下さった神様を声高く賛美します。

“二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」” 御言葉を委ねて不信の家族全てが神様を賛美する日、私が知っている全ての人が救われる日を切に願いつつも福音を伝えながら祈っています。神様が下さる福を受けないとけて幸せを感じられなくて神様が助けてくださらないと感謝する生活が出来ない事をしています。選んだ子供に与えて下さる神様の愛と恵みが溢れます。

“キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さを全て記録できないのを証します。”

神様に感謝します。



【信仰コラム】

幸せの理由

“このような祝福をもつ民はさいわいです。主をおのが神とする民はさいわいです”（詩篇, 144：15）

世の中が与えることができないし奪うことができない真の幸せの理由を持った人々がいます。 イエスキリストを信じる人々です。 ところで自信にある幸せの理由が分からなくて幸せを充分に享受することができない信者がいます。問題は認識の深さにあります。 理解して悟って感じる程度が弱ければまるで分からない人のように行動するようになります。 イエスキリストを信じる人は誰も持つようになる幸せの理由をよく見ます。

第一は、神様が分かることが幸せの理由です。

神様が分からなければ無神論者になるとか不可知論者になるとか偶像崇拝者になります。 人々がどんな神を信じて仕えてもかかわらず神様を仕えることで見なされると言う人々がいます。 自分の無知によって他の人々が真の神様を探すことができないように妨げる事をするのです。 創造主でイエスキリストを通じて罪人を救いしてくださる神様の外には他に神様がいらっしやらないです。 これは聖書に啓示されました。しかし聖霊が私たちの心の目を開いて分からせてくださなければ悟ることができません。 人は神様が分かるようにな

ることで初めて人生の存在理由と目的が分かるようになります。 神様が分かる知識は極めて貴い知識です。 このような知識を持つようになったことが幸せの理由です。

二番目は、キリスマンになったことが幸せの理由です。キリスマンに許諾された変化と栄華は極めてこの世の中では十分にすべて経験することができません。 将来私たちが復活した身を着るようになって新しいエルサレム宮に入行って神様とともに暮すその日までただし想像で楽しむこと以外にはこれ以上わからないことが多いです。 この驚くべきな変化と光栄はキリスマンだけ約束されたのです。 キリスマンになったということは神様の選ばれた者になって福音をきいて悔い改めてイエス様を救世主に信じて迎接するようになる神秘的な事です。 だからキリスマンになったことが幸せの理由です。

三番目は、福音が啓示された聖書を持ったのが幸せの理由です。

聖書の核心的な主題は神様の息子イエスキリストによる福音です。 福音はその内容が非常に多様で豊富です。 福音を七種で分類すると恵みの福音、愛の福音、権能の福音、治療の福音、天国の福音、再臨の福音、復活の福音です。 私たちは聖書を通じて神様が分かるようになって万物が存在するようになった事情が分かるようになりました。 聖書を通じて人間の墮落と救いの福音が分かるようになりました。 神様が人生

のために聖書をくださいました。 聖霊に感動された人々が神様から受けて記録したのが聖書です。 だから聖書を読んで黙想しながら学ぶことができるのが幸せの理由です。

四番目は、神様にお祈りすることができることが幸せの理由です。

祈禱は神様との対話で神様と交通する手段です。 祈禱を通じる神様との交わりはなによりも私たちの魂と生を美しく豊かにさせてくれます。 神様が私たちの懇求に回答します。人間が経験することができる最上の助けは神様の助けです。神様が私たちの祈禱をきいてどのように決めるのかこれを嬉しく収容することができる人には何をいくら求めても制限する理由がないです。 霊肉の間に必要なすべてのもの、そして自分と隣りのためのあらゆることを神様に求めることができます。 だからお祈りすることができることが幸せの理由です。この四種類の幸せの理由はキリスマンなら誰も享受することができます。 皆さんはこんな幸せを積極的に享受してください。 持つ者にもっとくださる神様の恩寵が皆さんに臨むように願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

イエス様の誕生に関わるお話はきけばきくほど神秘さと感動を加えてくれます。イエス様の誕生の消息は滅亡される運命に処している罪人を救われる神様の愛に対するお話です。誰でもイエス様の誕生の真正なみ旨を悟るようになれば神様の愛に感激しなければなりません。ヨハネ福音 3 章 16 節は神様の愛に関して記録された聖書お言葉の中に圧巻です。今日はクリスマスを迎えてイエスキリストにあって現われた神様の愛に関してよく見ることで一緒に恵みを分けます。

第一、神様の愛は限りなく神秘的な愛です。

“神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”という事実は驚くべきで神秘です。神様の天地創造に関して記録された創世記 1 章には次のように記録しました。第一の日には光を作りました。二番目の日には空の上の水と空の下の水を作りました。三番目の日には地と海を分けて草と野菜と木を種類のどおり作りました。四番目の日には太陽と月と星を作りました。五番目の日には水の中で動く生物と空に飛ぶ鳥を種類どおり作りました。六番目の日には地の獣をその種類どおり、肉畜をその種類どおり、地に這うすべてのものをその種類どおり作りました。そして最後に人を作りました。人を作る場面は珍しいです。創世記 1 章 26 節と 27 節に見ると“神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うもの」とを治めさせよう」。神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された”と記録されています。他の生命体は神様がはじめから種類どおりたくさん造ったが人はアダムから始まりました。初めて造り受けた人はアダムだけでした。アダムを深く眠るようになさってアダムのあばら骨一つをとってそのあばら骨で女を造りました。だから人類は皆がアダムとエバの子孫です。アダムとエバがお子さんを産む前に神様のお言葉を逆う犯罪を犯しました。そしてアダムの子孫で産まれた人は皆が罪人で生まれるようになります。このような運命に対して不正で拒否しても無駄です。どんな人でも自分が属した人種と血統と家門と時代に対しては不正で拒否することができません。アダムの子孫は皆が罪人で出生して一生を罪を犯して生きて行きます。罪人は神様の震怒と審判を避けることができません。結局は地獄の刑罰に処するようになります。霊的にはとがと罪で死んだ状態にあります。このような罪人が罪の赦しを得て義人になって神様のお子さんになって天国に行くようにするために神様が彼のイエスキリストを世の中に送りました。

神秘で豊富である永遠な愛

世の中へいらっしゃったイエスキリストに‘キリスト’という名前をくださいました。マリアと縁定めたヨセフはまだ同居する前にマリアが孕胎されたことを見て破談を思っている時に主の天使が夢に現われて彼に言いました。“彼がこのことを思いめぐらしていたとき、主の使が夢に現れて言った、「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい。その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。”（マタイによる福音書、1:20, 21）しました。イエスキリストが世の中へいらっしゃったことだけで罪人が救われるようになるのではないです。神様は愛が多いがまた公義です。だから罪が全然ない人が罪人の罪を担当して代わりに審判を受けなければなりません。正しくこのような任務を遂行するために神様がイエスキリストを世の中に送ったのです。神様のイエスキリストは聖三位の神様の一つになる聖子の神様です。だから罪人を救いしようとイエスキリストをくださった神様の愛は人間の理解を超越する愛です。“限りなく神秘的な愛”です。

第二、神様の愛は極めて豊富な愛です。

“神様が世をこのように愛してイエスキリストをくださったからこれは私を信じる者ごとに滅亡しないで永生を得させよう”と言いました。“私を信じる者ごとに”と明示しました。人種、老若男女、貧富貴賤、外見、才能による制限がなくて差別がないです。イエス様は誕生する時に王宮で絹の布団に包まれてなごやかなベッドにあるのではないです。おくるみに包まれてまぐさ桶に寝かしました。いくら貧しくて微賤な人でもイエス様に進むことをためらわないと言うメッセージがその中あります。イエス様の公生涯の期間の間にイエス様に手伝ってもらふこと願って来た人々の中に断られた人がいますか？ないです。イエス様から教えを受ける願う人々、治療を受ける願う人々、慰めを受ける願う人々の中に退けを受けた人は一人もありません。キリストが親しくおっしゃるのを“父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない”（ヨハネによる福音書、6:37）としました。神様の愛は限りなく豊富でイエス様に出て来ることが禁止された人は一人もありません。“これは私を信じる者ごとに滅亡しないで永生を得させようとするのだ”と言いました。私を信じるだけで永生を得ます。滅亡しないで永生を得るために罪人がすべきことはイエス様を信じることだけです。学識や力や才能やお金が必要ではないです。信じる者は誰でもです。だから神様の愛は“極めて豊富な愛”です。

第三、神様の愛は永遠な愛です。

神様はこの世の中に罪人がますます多くなることを見てある日急に罪人を救いしようとするみ旨を持ったのではないです。神様が罪人を救いようとイエスキリストをくださる計画を最初に啓示なさった時がいつですか？アダムとエバが罪を犯した直後です。神様が罪を犯したアダムとエバを尋ねて来ました。

そしてエバを誘惑した蛇に宣告しました。“わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう”（創世記、3:15）サタンが蛇を通じて誘惑する事をしたから蛇はサタンの代名詞になりました。このような宣告は人類の歴史がサタンとその追従勢力がキリストと聖徒を対敵する歴史であり、結局サタンの勢力が徹底的に敗れるようになることに対する予言です。‘女の子孫’と言うのは童貞女の身で誕生するイエスキリストを示すのです。サタンは人間を滅亡させようと女を誘って善悪を知る木の実を食べさせてアダムも食べさせました。しかし神様の摂理はむしろ女を通じてメシアがいらっしゃらせてサタンの勢力を滅ぼして人を救いするようにしました。アダムの子孫は皆が原罪を持った罪人で生まれるから救いする事をする資格がないです。道は一つだけです。罪のない神様のイエスキリストが童貞女の身に聖霊に孕胎されて人の姿で世の中へいらっしゃらなければならなかったです。そうするので‘女の子孫’がサタンの頭を傷つかせるというお言葉は神様のイエスキリストが人間の身を着て世の中へいらっしゃることを予告したのです。だから蛇に神様の宣告が下ろされたその日からサタンは女の子孫でいらっしゃるメシアを恐れてこれを阻もうと全力を競走しました。サタンはカインがアベルを殺すように作用したその日からずっと失敗して来から結局はメシアが誕生してしまいました。しかしサタンはあきらめしないで執拗に活動して遂にイエス様を十字架に釘付けるようにしました。しかしサタンの勝利は三日ぶりに終りが出てしまいました。イエスキリストが墓から復活したからです。サタンはイエス様の踪を傷つかせたがキリストが復活するのでサタンの頭を傷つかせました。キリストが十字架に釘付ける事ができなく死んだことが彼を信じるすべての罪人が罪の赦しを受けて永生を得させるあがない使役を果すのがなりました。ヨハネの第一の手紙、3 章 8 節には“罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである。”と言いました。神様が人間を救いしようとイエス様を世の中に送ったことは急にできた事ではなかったです。神様がエデンから福音を宣布した以来で多くの部分と多くの形でずっと知らせました。そして時が来って遂にイエスキリストを送ってあがないの使役を果しました。罪人を救いする神様の愛はその誰も切ることができません。“私を信じる者ごとに滅亡しないで永生を得よう”と言ったお言葉は神様の愛が永遠に現わしています。イエス様を信じる者にくださる生命が永遠にイエス様を信じる者に向けた神様の愛はやっぱり“永遠な愛”です。

イエス様を世の中に送った神様の愛は“限りなく神秘的な愛、極めて豊富な愛、永遠な愛”です。イエス様を信じる皆さんはこのような神様の愛の中に住んでいます。そうするから皆さんは“神様の愛の中にいる人よりもっと幸せな人はいないです。”と確信を持って宣伝するように願います。